

## 今号の作業

# バックミラー(左)を取り付ける



今号では、ハンドルバーの左グリップ基部に「バックミラー(左)」を取り付ける。バックミラーの“反射面”には透明な保護シートが貼られているので、作業時にはがすのを忘れないようにしましょう。また、ミラー部分とステーとの接合部は細く、破損しやすいので、無理な力を加えないように注意しよう。

### 今号のパーツ

①バックミラー(左)×1



#### 用意するもの

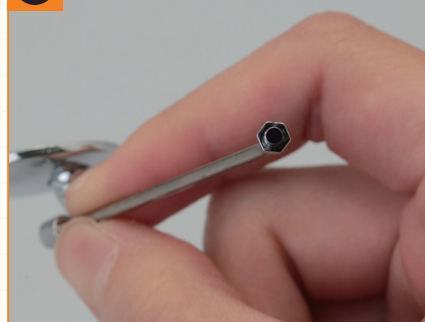
- ・メインフレーム(77号で組み立てたもの)
- ・マスキングテープ

#### 使用する道具

- ・特になし

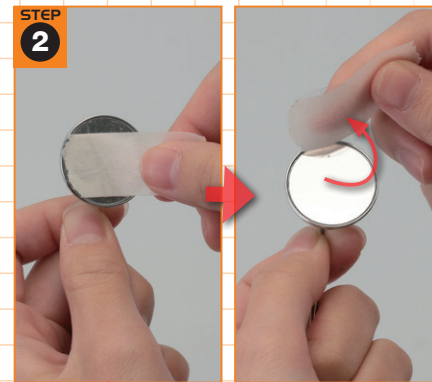
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。  
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様が異なる場合があります。

STEP  
1



①バックミラー(左)を用意し、ステーの先端の「取り付けピン」の形状をチェックしよう。先端にバリなどが残っている場合、金ヤスリで削除しておこう。

STEP  
2



次に、バックミラー(左)のミラー面に貼られた保護フィルムをはがす作業を行う。ミラー面に短く切ったマスキングテープを貼り付け、端からめくり上げるような感じでテープをはがすと、保護フィルムも一緒にはがすことができる。うまくはがれなかったときはマスキングテープを貼り直し、同じ手順を繰り返そう。

STEP  
3



77号で組み立てたメインフレームを用意し、ハンドルバーの左グリップ基部に設けられた取り付け穴に、バックミラー(左)の取り付けピンをセットする。

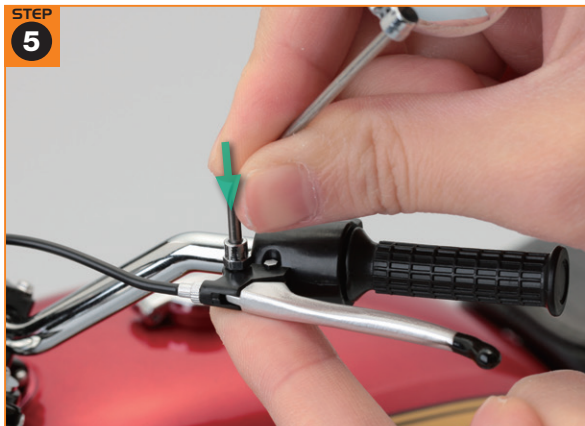
STEP  
4



破損しやすいので無理な力を加えないよう注意

動かないように保持する

左グリップが外れないようしっかりと保持し、③でセットしたピンを、そのまま真っすぐに差し込む。ミラー部分とステーとの接合部は細く、破損しやすいので、ミラー部分ではなくステー部分を持って差し込むこと。

STEP  
5

グリップ基部を下から支え、ミラーの取り付けピンを奥まで押し込む。

### 今号の完成



これで今号の作業は完了だ。ポイントは、ミラー側の取り付けピンをグリップ基部へ差し込むとき、グリップが動かないようしっかりと押さえておくことだ。グリップ自体もハンドルバーに差し込んでいるだけなので、作業中に外れないよう注意しよう。

### 塗装の傷をレタッチで修復しよう

組み立ての完成も目前に迫ってきたが、より美しくモデルを上げるためのテクニック「レタッチ」を紹介しよう。これは作業時に付けてしまった塗装面の傷や、部分的にはがれてしまった塗装被膜を修復する作業だ。本モデルの場合は使用する塗料の色数が少ないので、比較的容易に修復することができる。



本モデルでレタッチ作業を行う場合、基本的な塗料は黒とシルバーの2色だ。黒はメインフレーム、シルバー（ここで

はよりモデルの塗装色に近い「ガンクローム」を用意した）はエンジンなどのレタッチに使用する。

※万が一赤いボディカラー部分に傷が付いた場合は、Mr.カラー「No.47 クリアーレッド」を「うすめ液」で1:1程度に希釈し、傷の部分にだけ塗り重ねれば目立たなくすることができる。

#### 用意するもの

- ・プラスチックモデル用塗料(ラッカー系/黒、シルバー)  
(GSIクレオス Mr.カラー「No.2 黒」「No.104 ガンクローム」を推奨)
- ・模型塗装用の面相筆(模型専門店で購入)
- ・Mr.カラー うすめ液(※筆の洗浄用/模型専門店で購入)
- ・ティッシュペーパー



シリンダーヘッドカバーなどに付いた小さな傷は、面相筆の先端にごく少量のガンクロームを付け、ティッシュペーパーで軽くふき取った状態にしてから、筆先に残った塗料を擦り込む。



ブレーキホース(72号で取り付け済み)など、取り付けの際に塗装被膜のはがれてしまった場合は、筆先に塗料が付いた状態のまま薄く塗り重ねていく。厚く塗ると「色むら」が目立ってしまうので注意しよう。



メインフレームを固定しているビスの周囲は、レンチやラジオペンチの先端によって塗装がはかれやすい。筆先に黒の塗料を少量付け、こちらも薄く塗り重ねる。